



さわやかな風が吹く過ごしやすい季節になってきましたね。

4月の国語の授業では、どの学年も物語を学習したことと思います。学年のスタートにふさわしい、元気がでた、心があたたまったりするお話が多かったのではないのでしょうか。他の学年は、どんなお話を勉強しているのかな？と気になる人もいるかもしれませんね。

そこで、今回は、それぞれの学年の最初に出てくるお話・物語と、それを学習したあとで読むといいよ・・・と教科書で紹介されている本や、同じ作者が書いた本などを紹介したいと思います。

## いちねんせい

「はなの みち」

くまさんが、ふくろを つけました。「おや、なにかな。いっぱいはいっている。」

いったいなにがはいっていたのかな？

としよつには、たのしいえほんがたくさんありますよ。

「一年生になったら」 まど・みちお 詩 かべやふよう 絵 (ポプラ社)



## 2年生

「ふきのとう」 くどう なおこ さく ひらおか ひとみ 絵

よが あけました。あさのひかりを あびて、竹やぶの 竹の はっぱが、「さむかったね。」  
「うん、さむかったね。」とささやいて います。

竹やぶのそばで、ふきのとうが、はるになるのを まっています。

はるに なったことを 感じる 本の紹介です。

「おねぼうさんはだあれ？」 かたやまれい こ 文 あずみ虫 絵 (Gakken)



## 3年生

「春風をたどって」 如月 かずさ 作 かめおか あきこ 絵

「旅に出たいなあ。」 リすのルウは、さいきん、そんなことばかり言っています。

「ルウには行ってみたい場所があるようです。「ルウ」はそこに行くことができるのでしょうか。」

友だちについて書かれた物語の紹介です。

「ソラタとヒナタ ともだちのつくりかた」 かのゆうこ 作 くまあやこ 絵 (講談社)



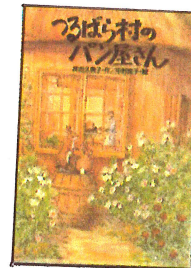
## 4年生

「白いぼうし」 あまん きみこ 作 柿崎 サラ 絵

「これは、レモンのにおいですか。」 ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。  
「いいえ、 夏みかんですよ。」

タクシー運転手の「松井さん」のまわりでは、時々ふしぎな出来事が起こるようです。ふしぎな出来事が起こるシリーズです。

「つるばら村のパン屋さん」 しげいち 茂市久美子 作 (講談社)



## 5年生

「銀色の裏地」 石井睦美 作 しんや ゆう子 絵

クラスがえて、里緒、あかね、希恵の仲良し三人グループは、二人と一人に別れた。一人になったのは里緒だ。

「里緒」の心情は、いろいろな人の言葉をきっかけに、揺れ動いていきます。人と人との関わりの中で心情が変化していく物語です。

「月にトンジル」 佐藤まどか 作 (あかね書房)



## 6年生

「帰り道」 森 絵都 作 スカイエマ 絵

放課後のさわがしいげんかん口で、いきなり、周也から「よっ。」と声をかけられて、どきっとした。

「律」と「周也」の帰り道のお話。あなたは、学校からの帰り道にどんな思い出がありますか。同じ出来事でも語られる視点によって、とらえ方は違ってくる。そんなお話の紹介です。

「わたしの苦手なあの子」 あさひ なつこ 朝比奈蓉子 (あかね書房)



## 7年生

「シンジュン」 西 加奈子 作

初めてシンタに会ったときは驚いた。中学校の入学式、そこに「僕がいる。」と思った。

中学1年生の新しい出発の時。そんな新鮮な気持ちで読める物語の紹介。

「サクラ咲く」 つじむらみづき 辻村深月 (光文社)



## 8年生

「アイスプラネット」 椎名 誠 作

僕のおじさんは「ぐうちゃん」という。津田由起夫38歳。いそうろう。

椎名誠さんは冒険家。教科書にこのお話を書いたあと、それをもとに長編「アイスプラネット」(講談社)を書きました。自分の息子との日常を描いた「岳物語」(集英社)もあります。

## 9年生

「握手」 井上 ひさし 作

上野公園に古くからある西洋料理店へ、ルロイ修道士は時間通りにやってきた。

井上ひさしさんは劇作家。演劇や人形劇に脚本をたくさん書いています。井上ひさしさんのデビュー作「ブンとファン」(新潮社)をどうぞ！

